

卒業50周年記念同窓会



平成30年10月6日『のと楽』にて記念同窓会が開催されました。今も気持ちは「紅顔の美少女美少年」のツワモノども、古希を目前にした70名の集いです。

同窓会って本当に不思議ですね、玄関で顔を見合わせた途端あつと言う間に50年前にタイムスリップ、ホテルロビーのあちこちでグループの輪が出来ています。

同窓会の冒頭、敷波の松沼医院・院長の松沼恭一さんに、私達の世代にとってこれからの切実な課題について講演して頂きました。

テーマは『認知症とフレイル(虚弱、老弱、衰弱)の予防』。年々歳をとるのは避けられませんが、どうやって健康寿命を維持するかについて、大切なポイントを教えて貰いました。食べる・身体活動・社会活動の3つが重要、口からしっかり食べ、身体を使って動き、そして一番大切なのは社会活動(社会との関わり、人との交わり繋がり)と得心しました。続いての懇親会は、物故者への黙祷のあと、テーブルに



徳山 清峯 (高20)
羽咋・神子原

着いている暇も惜しく、あちこちへ渡り歩き、近況交換・旧友の消息・故郷の様子など確認し合いました。そして、終身応援団長・吉田実さんの指揮のもと、全員総立ちし肩を組んで斉唱した校歌と応援歌、高台に俊立していた旧校舎を思い出し、歌いながらの武者震いでした。そのあと全員が二次会に流れ込み、テーブルを囲んで額を突き合わせながらのトーク、今も変わらぬ得意の喉を披露し合い、黒髪の甘い匂いを思い出しながらのダンス、まるで50年前の修学旅行の再現です。タイムスリップの魔法は何時までも解けないまま、部屋に戻ったあとも語らいは夜更けまで続きました。

私の本籍は関西支部ですが、伯父叔母が長くお世話になったご縁もあり、関東同窓会に何度も参加させていただいておられます。今回、会報に寄稿する機会をいただき、ありがとうございます。

最後に、同窓会の開催と賑わいは、まさに幹事と世話役の弛まぬ支えのおかげ、皆さま方に深く感謝申し上げます。



日独対抗陸上競技大会



平成20年10月24日
羽咋高校第60回記念校内
マラソン大会でスターターを行う。

【当時のスポーツニッポンの記事より】

「サラブレッドを思わせるような軽い足取りで日本チームのアンカー室矢が勢いよくテープを切った。」ワー！" 8万の大歓声が怒涛のように脈打った。お家芸のマラソン・三段跳びに金メダルを逸した日本チームがすべてをかけ 1600m リレーに見事優勝し、陸上の華やかなフィナーレを飾った一瞬である。室矢のところへ武者ぶりつく赤木・大串・林。どの顔も汗と涙がくしゃくしゃになっている。ありがとう、ありがとう、振り返りながら思い出したようにファンの歓声に応える選手の顔は印象的だった」

- 【プロフィール】
- 志賀町に7人兄弟の2番目で生まれる。
- 昭和20年 海軍甲種飛行予科練習生として入隊。1ヶ月後終戦を迎え、羽咋中学校に復学。陸上部に入る。
- 昭和26年 第27回箱根駅伝大会出場。中央大学総合優勝
- (4区 区間賞・区間新記録)
- 昭和27年 第15回ヘルシンキオリンピック大会 (男子800メートル出場)
- 昭和28年 第29回箱根駅伝大会出場。中央大学総合優勝
- (7区 区間賞・区間新記録)
- 昭和29年 第2回アジア大会 (マニラ)
 - 男子800m 優勝、
 - 男子1500m 準優勝、
 - 男子1600mリレー 優勝
- 昭和31年 第16回メルボルンオリンピック男子800m出場 (準決勝へ進出)
- 昭和33年 第3回アジア競技大会 (この大会を最後に引退)
 - 男子800m 優勝、
 - 男子1600mリレー 優勝 (アンカーで出場)



故・室矢 芳隆

志賀・大島

2020年の東京オリンピックに湧き上がっている今。本高校1回生卒業生でオリンピックに2度出場されました室矢芳隆氏が、今年3月23日逝去されました。享年88歳でした。ご冥福をお祈りいたします。

卒業30周年記念同窓会

第40期生の卒業30周年記念同窓会は平成30年8月11〜12日、和倉温泉「加賀屋」で開かれました。この同窓会は羽咋高校卒業生恒例ということ

当日は、少し早く家を出て、一緒に参加する小池君と30

ぶりに羽咋高校を訪れてみました。祝日ということもあり、ほとんど人がいませんでしたが、体育館でバレー部が練習していて、バレー部OBの小池君はとても嬉しそうだったのが印象的でした。バレー部の顧問の先生から現在の羽咋高校の様子も伺い、つかの間でしたが母校を満喫しました。

同窓会は恩師6名を含む総勢104名が参加しました。最初は顔と名前が一致せず困りましたが、1時間もすると徐々に記憶もよみがえってきて30年の時を超えて思い出話や近況で盛り上がりました。その後、三次会まで、皆、朝方近くまで語り



瀬森理介(高40)

中島・瀬風

明かしていました。

今回同窓会に参加して30周年というのは絶妙なタイミングだと思いました。もともと若い時であれば、仕事や家庭が大変でそれどころではないと思います。また、現在の年齢で考えれば付き合のある人間関係のほとんどが仕事関係という中で、さまざまな分野で活躍している同級生との会話から大いに刺激を受けることができました。

近況を話していると意外と近くにいる人も多く、中には職場が近く、同じ駅を25年も使っている同級生もいました。こうしたことから、第40期生関東支部と称して、同級生が出張などで上京してくるのに合わせて集まり、こうした会も既に4〜5回となっています。今後も大切にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓会の成功に向けて諸準備を頂いた、代表世話人の石山君をはじめ28人の世話人の皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。

追悼

故・杉紀彦

本名 杉野明夫(高9)



昭和14年9月17日 東京生まれ、少年時代を能登(志雄町杉野屋)で過ごし、羽咋高校を卒業。国立千葉大学文学部卒業。放送作家・作詞家・演出家・詩人として活躍。肺炎のため昨年12月17日に80歳で逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

【プロフィール】

石原裕次郎「昭和たずねびと」、美空ひばり「海にむかう母」、森昌子「なみだの棧橋」などを作詞。

菅原洋一の「ホテル」それぞれの人生」では、「日本レコード大賞アルバム企画賞」を受賞した。

また、NHKラジオ「はつらつスタジオ505」ときらめき歌謡ライブ」の構成を計33年務めた。

ラジオ日本「杉紀彦のラジオ村」は、杉紀彦が「ラジオ村・村長」としてパーソナリティを担当し、村長の杉とゲスト演歌歌手を交えたトークを中心に新旧の演歌が流され、日替わりの演歌歌手のアシスタントを迎えて番組は進行した。

1992年の開始以来、放送回数は4000回以上を重ねるラジオ日本の看板番組の一つとなっていたが、放送開始から25年間という長い期間に渡って放送され、親しまれてきた人気番組だったが2017年3月31日をもって惜しまれつつ終了した。

【特に作詞家として秀逸なる才能を発揮。昭和演歌の作詞は400曲以上！】

二葉百合子「人は堂々」/三橋美智也「悲しみ河岸/恋放浪」「城下町の女」など…。西田敏行「木綿の愛情」/内山田クールファイブ「おんなの愛はブルース」/北原ミレイ「夢うた」/小林旭「氷雪海峡」「東京わくわくらば通り」など/鳥倉千代子「風のみち」/清水由貴子「いつか秋」/菅原洋一・シルヴィア「アマン」/ダ・カーポ「ほこはま詩集」など…。

そして「西部警察PART III」の脚本を手掛けた。さらに「夢織りひとり」「人生よいま薫れ」歌手として発表した。また、詩集「あなたのそばに」三部作なども出版。

